

国立病院機構熊本医療センター

No.215

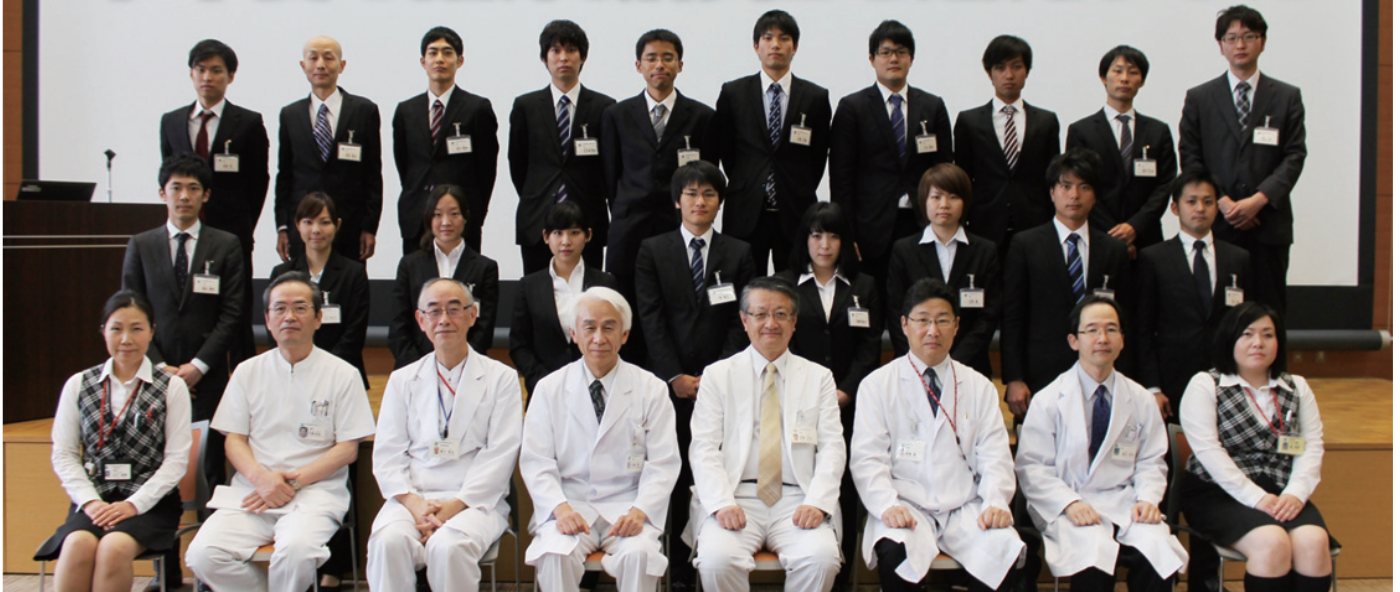


# くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 本年度も臨床研修医を迎えました



今年も元気な新研修医を19名迎えました。臨床研修プログラムごとの内訳では、総合コース11名(定員13)、救命救急集中治療コース1名(定員2)、新設のプライマリケアコース2名(定員2)、歯科コース1名(定員2)、および1年次協力型として熊大Cプログラム2名、2年次協力型として熊大Aプログラム2名になります。本年度は誠に残念ながら、マッチング者のうち総合コース2名と歯科コース1名の3名が国家試験に不合格となり、また、救命救急集中治療コースでマッチングしなかった1名と併せて4名の定員不足となりました。しかし、当院持ち上がりの2年目16名(総合臨床研修コース14名、救命救急研修コース2名)と併せて総勢35名と大所帯になり、現在、医局は大変活気に溢れております。4月1日から約1週間に渡って実施されたオリエンテーションやガイダンス、また

各部門別の実習も終了し、現在、各科での研修が開始されたばかりです。新研修医の初々しく率直な振る舞いに、一方で自らを顧みる良い機会にもなっております。当院での研修を希望した皆の期待を裏切らないよう、さらに素晴らしい研修プログラムの構築を目指して努めて参りたいと思います。

また、本年度も地域密着型の地域医療研修につき、協力施設の先生方をはじめ地域の先生方には厚くお礼申し上げます。医師にとって地域医療は、皆が医師を目指した頃の原点だと思いますし、また、患者に最も身近で接する先生方の医師精神を肌で感じ、研修医が自身の将来像を探す大事な機会になります。いろいろとご面倒をお掛けすることと思いますが、ご遠慮無くご指導お願い致します。

(教育研修部長 大塚忠弘)

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

### 患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



## 「日常の診療と非日常の現実逃避」

### 直海内科クリニック

院長 直海 晶二郎

当院は、1998年に熊本市本山町にて義父母が営んでいた松元医院を継承し副院長の妻と内科、循環器科、消化器科を標榜する無床の診療所を開院し、早くも17年になります。地理的には、医師会では南部に属しますが、住所の区割りでは中央区という微妙な位置にあります。また、17年とは、開業前に主に勤めていた熊大附属病院第3内科での所属期間と同じであり、月日の過ぎ去る速さを改めて痛感しています。

開業当初と比べると、大きく変化したものの中には患者さんの高齢化があげられます。平均寿命を見ると、1998年においては、男77.16歳、女84.01歳であるのが、2013年には、男80.01歳、女86.61歳と

更に伸びており、天寿とはいったい何歳だろうと考えながら診療している毎日です。一方、超高齢者の患者さんは、心血管合併症、悪性腫瘍、肺炎、CKD、認知症等を合併しており、総合病院のお世話になる場合が多くなります。中でも、熊本医療センターは大変心強い存在でして、救命救急科の高橋毅先生を初めとして、消化器内科の杉和洋先生や腎臓内科の富田正郎先生、また各科の専門医の先生方には患者さんの紹介等で大変お世話になっており、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。

私的な近況としては、昨年夏にハスラーという四駆の軽自動車を送診用も兼ねて購入しました。丁度熊本城マラソンのある日曜日に、五家荘の久連子での福寿草祭に、急遽妻と朝から出発しました。北の入り口にあたる標高千メートルの二本杉峠の近くになると予想外に道路にも10cm以上の積雪があり、轍の痕をなぞりながらなんとか無事チェーンなしで峠を越え、目的地に着きました。冬の山麓には既にたくさんの福寿草が咲いており感動的でした。二人の娘の子育ても終わりつつあり、時には現実逃避にて心身の疲れを癒し、日常では地域のかかりつけ医として頑張ろうと思っております。



## 平成26年度第2回「アドバイザー・コミティ」が開催されました

去る3月18日(水)、本年度第2回目のアドバイザー・コミティを開催いたしました。アドバイザー・コミティは、地域の急性期中核病院としての当院の診療機能の充実と当院の理念である「最新の知識・医療技術と礼節をもって、良質で安全な医療」の推進を図ることを目的に、外部委員の医師の皆さまから忌憚のないご意見を頂戴する会議です。今回、7名の外部委員の先生方にご出席をいただき、ご意見を伺いました。病院側は、河野院長をはじめ幹部職員、各診療科の部長又は医長、その他事務局の総勢22名が参加しました。話題提供といたしまして、杉消化器内科部長より「C型肝炎に対するインターフェロンフリー治療」、山本産婦人科医師より「当院における婦人科腹腔鏡手術の状況について」をご紹介いたしました。その後、意見交換が行われ、外部委員の皆さまから、多くの貴重なご意見、ご指導を頂きました。ご意見の一部をご紹介させていただきますと次のとおりです。「共同指導に來られた先生方をお迎えする際の対応の改善を」、「坂を登ってこられる患者様への2階エレベーター案内方法の検討を」、「GF、CFの直接予約ができるようにし



アドバイザー・コミティの様子

てほしい」、「若い医師に介護保険の中身についてもっと知っておいてほしい」「退院、転院時及び死亡時の情報を早期に紹介医へ連絡するシステムを作してほしい」「患者様を施設に返そうとする場合は、当該施設の受入能力まで考慮してほしい」「りんどうネットをもっと宣伝すべき」等々。今後は、頂戴したご意見を参考にさせていただきます、診療機能のさらなる充実を図りながら、病院運営に活かしてまいりたいと思います。

(管理課長 清水就人)



## 就任のご挨拶



産婦人科部長

おおにし よしたか  
大西 義孝

産婦人科 大西義孝です。本年4月よりお世話になります。鹿児島生まれで、鹿児島大学卒業、鹿児島市立病院に30年ほど勤めました。その後数カ所の病院に勤務しましたが、隣の県ですが熊本の事は何もわかり

ません。皆様にいろいろと教えて頂きながらだんだんと熊本の事を勉強していきたいと思っております。

専門は婦人科腫瘍です。もう昔ですが留学時代は癌細胞の薬剤耐性について研究しておりました。卵巣癌の細胞株もいくつか作りました。臨床では婦人科悪性腫瘍の手術、抗がん剤治療、臨床試験（主に第Ⅱ相、第Ⅲ相試験）もですが、若いころは1000g以下の未熟児医療にも関わっておりましたし、九州で初めて成功した顕微授精の手伝いなどもしておりました。羊年、今年還暦になりますが、まだまだ未熟です。よろしくご指導ください。



腫瘍内科部長

さかい けんじ  
境 健爾

新たに「がん薬物療法を専門に扱う部門」を創設するために、2015年4月より赴任しました。臨床腫瘍学および緩和医療学を両輪に、腫瘍内科医師4名体制で

仕事を開始します。ご周知の通り、日本は第2期がん対策推進基本計画が進行中です。がん診療には「外来化」「集学化」「チーム医療」「医療連携」の充実が求められております。現行の外来がん治療室をますます充実させて、皆様のご施設と当院とで行う地域がん診療連携体制が日本や世界のモデルとなることを目指します。今後、皆様とがんの治療や検査、ケアに至るがん診療の全ての局面でチーム医療による医療連携を図っていくことになると存じます。ご協力、ご参画のほど何卒宜しくお願い申し上げます

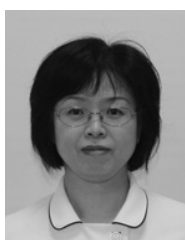


薬剤部長

なかがわ よしひろ  
中川 義浩

こんにちは、新たに薬剤部に赴任しました。病院での薬剤業務は調剤や注射薬の無菌調製などに加え、質の高い薬剤管理指導から病棟薬剤業務へ発展的に拡充しています。その為に専門性の高い薬剤師の育成、臨床研究部門における積極的な関与などの取り組みが必

要です。また今後、医療システムは病院完結型から地域全体で支える地域完結型へシフトすることが予定されているようです。在宅医療を含めた地域ごとの医療供給体制を構築するために、薬剤師に求められる役割と責任はこれまで以上に増加すると考えています。そのため地域医療の薬薬連携を推進する目的で、「二の丸薬薬連携講演会」を開催し当院の医師と薬剤師の講演と、「二の丸薬薬サロン」で意見交換会を始めています。さらに連携を強化して、患者さんを中心とした安全で安心な薬物療法を提供できるのかを念頭に置いて、地域連携に取り組みたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



副看護部長

みやざき えみこ  
宮崎 恵美子

4月1日付で熊本再春荘病院より、配置換えで参りました。

熊本医療センターは、17年ぶりとなります。その間熊本県以外の九州各県で勤務しておりましたので、前

勤務施設の熊本再春荘病院に来るまでは熊本県にはかなりの期間的なブランクがありました。熊本医療センターもハード面、ソフト面共に変化してきており、赴任してきましてまだ数日ですが、名実ともに変遷、進化を感じております。

今後、熊本医療センターの職員の一人として看護の質の向上や看護研修（看護セミナーや看護教育他）等でも地域の皆様と情報交換や学び合いができるように微力ですが、力を尽くしていきたいと思っております。どうぞ今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

# 病棟紹介

## 7北病棟



7北病棟スタッフ

当病棟は、脳神経外科、神経内科を中心とした病棟です。脳神経外科では、脳出血、くも膜下出血、慢性硬膜下血腫患者の術前・術後管理、また、神経内科においては脳梗塞やTIA、髄膜炎などの急性期看護を行っています。症状が不安定なため観察を密に行うと共に、急性の発症事例が多く、療養環境の変化などを含め患者様・ご家族の不安も強く、訴えを傾聴する姿勢を大切にしています。中でも、自ら意思の伝達をすることができない患者様や理解できても意思の伝達を十分にできない患者様が多いため、全てのスタッフが人権の尊重を念頭に日々のケアにあたっています。また、その支援に欠かせない医療スタッフとして、リハビリによるADL訓練・生活支援、摂食嚥下チームの摂食嚥下評価、NSTによる栄養サポート、地域医療連携室による療養環境の調整や社会支援など、チーム医療が充実した病棟です。

脳卒中に関しては、脳卒中地域連携クリティカルパスを活用し、後方病院との連携を図っています。今年度は、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師が誕生する予定です。今後は認定看護師としての役割を発揮することで、より脳卒中看護に力を入れたいと考えています。

当病棟では、緩和ケア病床を有しており、広い室内空間はもちろん、専用のデイルームを有しており静かな環境のなか、ご家族との時間を大切に過ごして頂いています。  
(7北病棟師長 池田としえ)



神経内科カンファレンスの様子



摂食嚥下評価は欠かせない評価のひとつです



7北病棟専用のデイルーム ヘリコプターの離着陸も見るができます。

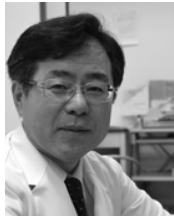


緩和ケア病床のお部屋



# 2015 診療科紹介 (81)

## 消化器内科



部長・消化器病センター長

杉 和洋 (すぎ かずひろ)

消化器一般、消化器内視鏡、肝疾患、  
RFA治療、IFN治療、NASH・NAFLD、  
PBC・AIH、国際医療協力

日本内科学会指導医・認定医  
日本肝臓学会指導医・肝臓専門医  
日本消化器病学会指導医・専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本消化器病学会九州評議員  
日本肝臓学会西部会評議員  
外国人医師臨床修練指導医



医長・超音波診断室長

中田 成紀 (なかた あきのり)

消化器一般、消化器内視鏡、肝疾患、  
内視鏡治療、EIS/EVL治療、PEG  
造設、肝栄養療法、CART

日本内科学会認定医  
日本肝臓学会肝臓専門医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医

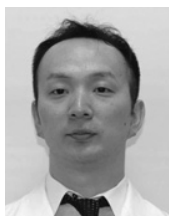


医長

石井 将太郎 (いしい しょうたろう)

消化器一般、消化器内視鏡、  
胆・膵内視鏡治療

日本内科学会認定医  
日本肝臓学会肝臓専門医  
日本消化器病学会専門医

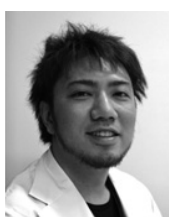


医長・内視鏡室長

松山 太一 (まつやま たいち)

消化器一般、消化器内視鏡、  
内視鏡治療、ESD治療

日本内科学会認定医  
日本肝臓学会肝臓専門医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本消化管学会専門医



医師

本原 利彦 (もとはら としひこ)

消化器一般、消化器内視鏡、  
内視鏡治療、肝疾患

日本内科学会認定医  
日本消化器病学会専門医



医師

松野 健司 (まつの けんし)

消化器一般、消化器内視鏡、  
内視鏡治療、肝疾患

日本内科学会認定医  
日本消化器病学会専門医



医師

袖留木 秀人 (ゆるき ひでと)

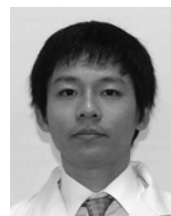
消化器一般、消化器内視鏡、  
肝疾患、内視鏡治療



医師

市川 亮 (いちかわ りょう)

消化器一般、消化器内視鏡、  
肝疾患



医師

二口 俊樹 (ふたぐち としき)

消化器一般、消化器内視鏡、  
肝疾患

## 診療の内容と特色

消化器病センターは、診療部門として消化器内科外来および病棟（主に7階西病棟）、ならびに検査・診療部門として内視鏡室および超音波室より構成されています。

### 『消化器疾患の診療』

治療内視鏡としては、上部消化管（食道・胃・十二指腸）では、食道静脈瘤に対して硬化療法（EIS）、結紮術（EVL）、およびその併用（EISL）、総胆管結石に対して乳頭切開術（EST）やバルーン拡張術（EPBD）、食道あるいは幽門狭窄拡張術、ポリープの切除術、出血例ではエタノール局注法、クリッピング法による止血術を行っています。早期胃がんに対しては内視鏡的粘膜切除術（EMR）に加え、粘膜下層剥離術（ESD）を導入しています。また下部消化管（結腸・直腸）ではポリープ切除術、EMR、ホットバイオプシー及び止血術を多用し、平成25年より大腸ESDを本格的に開始しました。切除不能および再発胃がんおよび大腸がんに対しては化学療法を行っています。さらに経管栄養で嚥下障害のある患者様には、内視鏡的胃瘻造設術（PEG）を行っています。

### 『胆膵疾患の診療』

胆・膵疾患では、内視鏡的胆道ドレナージおよびステント留置術や内視鏡的胆管結石除去術、膵がんに対する化学療法を積極的に行っています。平成25年より超音波内視鏡を用いた診断および治療を本格的に開始

しました。細径針による吸引生検（FNA）や経胃的膵ドレナージへの応用が期待されます。

### 『肝疾患の診療』

肝疾患では慢性疾患が多く、肝生検による組織学的診断による病態把握とともに、C型慢性肝炎ではインターフェロン（IFN）療法、特に難治性症例に対するPEG-IFN・リバビリン併用治療を積極的に行っています。平成26年1月よりシメプレビルによる3剤併用療法を開始し、さらに平成26年11月よりアスナプレビル・ダクラタスビルによる経口2剤インターフェロンフリー治療を開始しました。B型慢性肝炎に対する核酸アナログ治療やPEG-IFN療法も数多く行っています。また原発性胆汁性肝硬変症例が多く、国立病院機構肝疾患専門施設と共同で臨床研究を行い、病態解明に努めています。肝硬変症例では食道胃静脈瘤に対するEIS(L)、EVL、さらにはバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術（B-RTO）治療を行っています。また肝硬変栄養療法に取組み、成果を上げつつあります。難治性腹水に対してはがん性腹水とともにCART（腹水濾過濃縮再静注法）を行い成果を上げています。肝細胞がんでは、肝動脈塞栓術（TAE）とともにラジオ波焼灼療法（RFA）を積極的に行っています。近年注目されている非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）の診断治療にも力を入れています。平成20年4月より全国でもいち早くC型慢性肝炎インターフェロン治療地域連携クリティカルパスを作成し運用しました。平成21年4月からは肝がん地域連携クリティカルパスの運用を開始しました。熊本県肝疾患診療連携ネットワークにおける地域中核病院として、診療連携拠点病院はもとより地域の専門医療機関およびかかりつけ医と密に連携しながら、肝炎から肝硬変、肝がんを包括的に治療しています。

## 診療実績

日本全国の肝臓専門施設で作る国立病院機構肝疾患ネットワーク（肝ネット）に参加し、大量のエビデンスを蓄積してEBMを推進するための共同研究を行っています。院内活動では、患者との教育と交流を兼ねて「肝臓病教室」を毎月第3金曜日に開催しています。平成20年4月より全国でもいち早くC型慢性肝炎インターフェロン治療地域連携クリティカルパスを作成し運用を始め、地域の医療機関と実地医療に根ざした勉強会として「二の丸肝臓談話会」を発足しました。国際医療協力として集団研修コース「肝炎の疫学、予防及び治療」を通してJICA（国際協力機構）と共に途上国の肝炎専門医師等に対する研修を指導しています。

## ご案内

毎週水曜日には内視鏡検査の症例検討会を午後5時より消化器病センター読影室で、金曜日午前7時30分より消化器病カンファレンスを医局カンファレンスルーム1で行っています。ご参加を歓迎致します。二の丸肝臓談話会は年4回の事例検討会と1回の特別講演会を予定しています。興味ある症例や診断あるいは治療に苦慮する症例があればご紹介下さい。

## 研究実績

平成26年度

【外来患者数】 1,984名（月平均165名）

【新入院患者数】 1,929名（月平均161名）

【主要疾患】

急性肝炎（劇症肝炎含む）	43例
慢性肝炎（肝生検・インターフェロン）	98例
肝硬変（肝性脳症・腹水）	171例
食道胃静脈瘤（内視鏡的治療）	28例
肝細胞癌（TAE・RFA含む）	162例
肝嚢炎（PTGBD含む）	13例
胆石症	126例
胆嚢癌・胆管癌（PTCD・ステント含む）	170例
急性膵炎・慢性膵炎	199例
膵癌	103例
胃十二指腸潰瘍（内視鏡的止血術含む）	130例
胃癌（内視鏡的粘膜切除含む）	184例
イレウス	83例
潰瘍性大腸炎・クローン病	25例
大腸ポリープ（内視鏡的ポリープ切除）	157例
大腸癌	73例

## 研究実績

電子内視鏡LUCERA（4台）のシステムに上部内視鏡はGIF-H260Z、GIF-H260、GIF-Q260（5本）、GIF-Q260J、GIF-Q230（2本）、GIF-XQ230、GIF-XP260NS、GIF-2T240、JF-260V、TJF260V、CF-H260AZI（2本）、CF-Q260AI（3本）、PCF-Q260AZI、PCF-Q260AI（2本）、CF-230I、PCF-230などで、洗浄器はエンドクレンジ（4台）。また超音波内視鏡はオリンパスEU-ME1、GF-UE260、GF-UCT260、高周波焼灼装置はESG-100（2台）に加え、高周波手術装置VIO 300D-D-APC2です。平成25年10月よりリ7台のカバリ・ベッド全てに酸素飽和度と脈拍の監視装置としてコヴィディエンパルスオキシメーターN560を設置しました。これと同時に内視鏡検査に際してプラスチック留置針と生食ロックで静脈ルートを確保し、前投薬をこれまでのホリゾンからドルミカムへ漸次変更しています。上部消化管内視鏡検査の咽頭麻酔は、キシロカインビスカスを廃止してキシロカインスプレーのみに切り替えました。入院患者のみならず外来患者にもリストバンド装着を行い、患者誤認防止に努めています。超音波診断装置は東芝Aplio XGおよびAplio 500、GE LOGIQ 7およびLOGIQ E9（以上、診断室据置）、Aloka SSD3500（移動検査・処置用）に東芝Viamo Limitedを増設しました。RFAはCool-tip RFシステムから、RFAシステムEシリーズに更新し、平成26年よりバイポーラーRFAシステムのセロンパワーを導入しました。超音波検査室はもとより病棟での安全かつ快適な検査・治療環境を提供します。



# 熊病の歴史

## 内科(2)

以後、常勤医師（厚生技官）を在籍順に記載しますと、木村圭志、中路丈夫、小野崇、大塚恵一、松村克己、佐藤昌彦、島津和泰、眞田功、東輝一朗、島田達也となります。なお各診療科が内科より独立していった後の職員名及び多数の研修医を含む非常勤職員名はあまりにも多いので各診療科の歴史の項の記載にゆずります。

昭和60年になり、蟻田 功院長が赴任されたときから、内科研修教育認定施設を獲得するため専門医の必要が生じ、以後内科の細分化が急激に図られました。この頃より熊本大学第2内科以外からも医師が派遣されるようになり、熊大第1内科より島津和泰医師（呼吸器）、熊大第3内科より東輝一朗医師（内分泌・代謝）が赴任しました。そして各診療科の独立が始まり、消化器科（木村圭志）、呼吸器科（松村克己）、平成元年には、骨髄移植を熊本県で立ち上げるために河野文夫（血液・膠原病内科）が赴任しました。その後、腎臓内科（中山真人）、神経内科（徳永 誠）、救急科（高橋 毅）、代謝内科（小堀祥三）が診療科として独立しました。医師の派遣も各専門診療科医局から赴任するようになり、内科系医師数も飛躍的に増加しました。平成6年、常勤医は循環器科も含めて18名、うちレジデント3名でしたが、平成26年4月現在、レジデント9名を含めて49名が在籍しています。

国立熊本病院は、平成16年4月に独立行政法人国立病院機構熊本医療センターになりました。そして平成21年9月に新病院が完成しました。新病院に移転する前の旧病院は、昭和38年から昭和43年にかけて作られたものでしたので約40～45年を経て新病院に移行したことになります。旧病院での内科病棟構成は、別1病棟（50床）：循環器内科、別3病棟（50床）：消化器内科、呼吸器内科、内分泌・代謝内科の混合病棟、別6病棟（50床）：腎臓内科、泌尿器科、外科との混合病棟、西1病棟（50床）：血液内科でした。

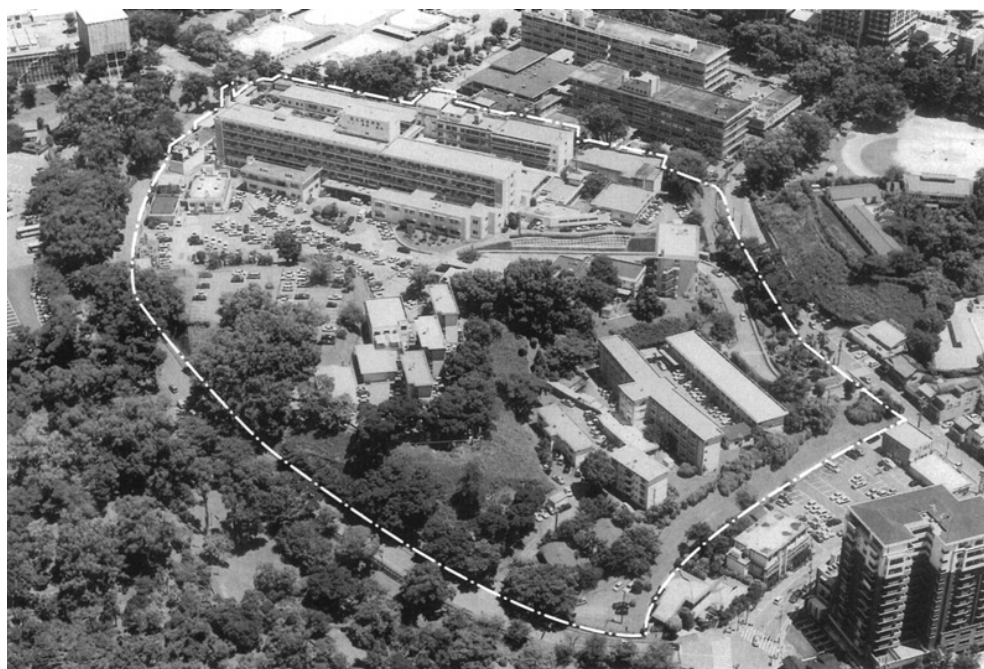
新病院の内科病棟の構成は、5西病棟（50床）：腎臓内科、泌尿器科の混合病棟、6北病棟

（50床）：循環器内科、心臓血管外科の混合病棟、6南病棟（50床）：血液内科（15床の無菌室病棟を含む）、6西病棟（50床）：糖尿病・内分泌内科、産婦人科、小児科、救急科の混合病棟、7東病棟（50床）：救急部、皮膚科、眼科、歯科口腔外科、形成外科の混合病棟、7西病棟（50床）：消化器内科、呼吸器内科の混合病棟、7北病棟（50床）：神経内科、脳神経外科の混合病棟、救命救急病棟（50床）：救急部（ICU6床を含む）となっています。

旧病院と新病院で最も異なったところは、医長の個室がなくなり、すべての医師が同じ部屋に居住する大医局になったことです。これにより診療科の垣根は、さらに低くなり、内科以外の診療科ともより密接な相談や意見交換が可能となりました。

現在、内科医局会にはすべての内科系診療科が集まり、内科としてまとまって診療・教育・研究に当たっています。平成27年4月の内科医局会の各診療科主任医長・部長の構成は、高橋 毅副院長、清川哲志統括診療部長、境 健爾腫瘍内科部長、杉 和洋消化器内科部長、藤本和輝循環器内科部長、日高道弘血液内科部長、富田正郎腎臓内科部長、豊永哲至糖尿病・内分泌科部長、武本重毅臨床検査科医長、田北智裕神経内科医長、原田正公救急科医長、名村 亮呼吸器内科医長、となっています。敬称は省略させていただきました。

（院長 河野文夫）



前病院建物

## 臨床研修終了式が行われました

平成27年3月20日の医局会終了後、お世話になった指導医の前で基幹型研修を受けた医科16名、歯科2名の臨床研修修了式が行われました。大塚教育研修部長が修了者の名前を呼び上げ、河野病院長より一人一人に臨床研修修了証が授与されました。研修開始時は、まだ学生のような初々しかった研修医も、1年あるいは2年間の当院での研修で鍛えられ、自信に満ちあふれた医師に成長していました。これは本人たちの努力もさることながら、地域医療の研修先として研修医を指導して頂いた協力病院の先生方や、患者様を送って貴重な症例を経験させて頂いた連携医の先生方のお陰であり、心から感謝申し上げます。本年は救急科・形成外科・血液内科・歯科で合計4名が引き続き当院で診療を行いますので、引き続きの御指導を宜しく願います。



臨床研修修了式後の記念撮影

いたします。

夜は研修修了祝賀会を行いました。院長をはじめとする指導医の先生方の温かい言葉と、新チーフレジデントの司会によるアトラクション、院長からの記念品や研修医1年からの心のこもった寄せ書きなどを贈呈して、研修の修了と新しい門出にふさわしい楽しい会となりました。当院で学んだことを忘れずに、更に成長して立派な医師となるよう願っています。

(教育研修科長 豊永哲至)



河野院長より臨床研修修了証が授与されました。

## 米国退役軍人病院等で研修をしてきました

国立病院機構による人材交流プログラムにより、平成27年1月24日より3月15日まで、米国ロサンゼルス市の退役軍人病院等で研修させて頂きました。

前半は市内の大学病院の外傷外科チームに参加して、高度に専門化された分業システムや現場からの教育姿勢など、米国の救急医療の特徴を体感することができました。

後半は退役軍人病院等のPTSD(心的外傷後ストレス障害)プログラムをまわり、帰還兵らに対する専門性の高い国家的な支援システムに驚きつつ、日本や海外の災害・紛争被害者支援に役立つ「こころのケ



PTSDに対する音楽療法。絵画療法やロールプレイなどもあり多彩でした。

ア」の手法(EMDR集団療法など)を体得できました。

また、英語のみならずスペイン語、中国語など多様な言語が日常的に飛び交う多文化の現場において、これから当院や日本の国際医療はどうあるべきか考える貴重な機会にもなりました。逆に、きめ細やかなサービスや食生活への配慮など、日本が世界に誇るべき特徴を再確認できたことも、大きな収穫でした。

まずはこれらの体験をできるだけ多くの方々と共有し、現場にあった発展に協力することで、地域医療および国際理解の向上の一助となれるよう、精進したいと思います。(外科・国際医療協力室 山口 充)



外傷外科チームは、20~30代の若手中心の活発な専門家集団でした。



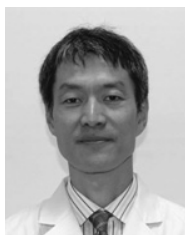
# 新任職員紹介



産婦人科医長  
てい としあき  
**鄭 俊明**

平成27年4月より産婦人科に赴任いたしました、鄭 俊明

です。平成15年4月から平成18年3月の期間にも熊本医療センターに在籍しておりましたので、9年ぶりの復帰となります。この間は阿蘇および天草で地域の産婦人科医療に携わってきました。熊本医療センターの産婦人科といえば悪性疾患の診療が中心となりますが、その他、産婦人科一般・周産期・不妊診療なども行ってまいりましたので（熊本医療センターでは周産期診療は行っておりませんが）、そういった経験を生かせればと考えております。ご指導いただくことも多いと思いますので、よろしく願いいたします。



腫瘍内科医長  
いそべ ひろたか  
**磯部 博隆**

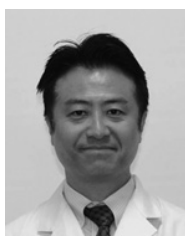
磯部博隆と申します。この度、済生会みすみ病院より熊本医療センターに異動して参りました。これまで行っておりました地域一般診療を生かしながら、緩和診療に主に携わっていきます。先生方と連携しながら地域の方々を支えて参りたいと存じます。ご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



神経内科医長  
やまもと ふみお  
**山本 文夫**

4月から神経内科に赴任させていただいた神経内科の山本と申します。

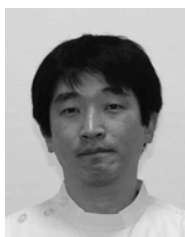
平成19年に熊本大学神経内科に入局させていただき、神経疾患一般、主に脳卒中を中心に診療してきました。地域の重要な中核病院であり、脳卒中以外の疾患も多いと聞いています。不安もありますが、いろいろな経験ができると少し期待もしています。熊本医療センター勤務は9月までの半年間ですが、周囲の医療機関の先生方のお役に立つように努めていきますのでよろしくお願い致します。



外科医長  
いわがみ しろう  
**岩上 志朗**

皆様、はじめまして。熊本大学消化器外科より参りました岩上志朗と申します。専門は消化器癌（胃癌・大腸癌）で手

術から化学療法まで行います。早期癌に対しては根治性は保ちつつ、臓器機能を可能な限り温存し、かつ腹腔鏡を用いた低侵襲手術を行っています。遠隔転移を伴う進行癌に対しては化学療法と手術を組み合わせた集学的治療を行うことにより予後の改善に努めています。患者様それぞれの病状に応じたテーラーメイド治療を心掛けています。また、熊本医療センターの特徴である一般外科の緊急手術にも対応致します。外科系でお困りの際はいつでもご連絡下さい。これから、宜しくお願い致します。



脳神経外科医長  
つぼた のぶゆき  
**坪田 誠之**

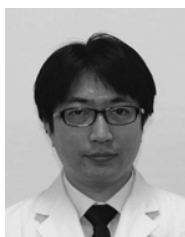
平成27年4月1日より脳神経外科で勤務させて頂く坪田誠之と申します。2000年に熊本大学脳神経外科に入局後、熊本大学附属病院、熊本市民病院、球磨郡公立多良木病院、済生会熊本病院で脳外科医として勤務してきました。平成23年から4年間、北海道帯広市にある北斗病院に勤めていましたが、この度、熊本に戻ってくることになりました。脳外科医として熊本の地域医療に貢献できるようにがんばりたいと思います。どうぞ皆様よろしく願いします。



皮膚科医長  
あおい じゅん  
**青井 淳**

皮膚科医として今年度から熊本医療センターに赴任することになりました。当院は先生方から多数症例をご紹介いただくことで成り立っています。先生方のお役に立てることが出来るように可能な限りがんばらせていただこうと思っています。何卒よろしく願いします。

# 新任職員紹介



腫瘍内科医長  
やまもと はるかぜ  
**山本 春風**

平成27年4月より勤務させていただくこととなりました山本と申します。

熊本大学を卒業後、熊本市内の病院をスーパーローテーション

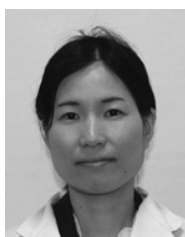
ンで研修させていただき、熊本赤十字病院で内科勤務後、平成18年から東京・築地にあります国立がん研究センター中央病院で9年間勤務しておりました。腫瘍内科医として抗がん剤治療の研鑽を積んで参りましたが、この度生まれ故郷であります熊本に帰り、当院で勤務させていただくこととなりました。熊本ではまだ抗がん剤治療を専門とする内科医は広く認知されていない状況ではありますが、少しでも皆様のお役に立つよう気を引き締めて参りたいと存じます。何か困ったことがありました際にはご連絡いただけますと幸いです。よろしくお願いたします。



消化器内科医長  
まつやま たいち  
**松山 太一**

消化器内科に赴任致しました松山太一と申します。平成17

年に熊本大学を卒業し、卒後臨床研修終了後の平成19年から2年間、熊本医療センターに勤務させて頂いておりました。6年ぶりの出戻りでございます。専門の早期消化管癌の内視鏡治療を中心に、胆膵疾患の内視鏡治療や肝疾患治療など消化器内科医として幅広く研鑽を積んでいきたいと考えております。当時勤務していた時に比べると建物も人も変わり、まったく違う病院に来た印象ですので、1日でも早く新しい環境に慣れ、診療に邁進していきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。



糖尿病・内分泌内科  
まつやま りな  
**松山 利奈**

平成26年4月より糖尿病・内分泌内科で勤務させて頂くことになりました松山利奈と申します。

熊大医学部を卒業後、当院にて2年間初期研修医として勤

務し、熊本大学代謝・内分泌内科に入局致しました。その後、大学病院、荒尾市民病院にて糖尿病を中心とした診療に携わり、多くの症例を経験させて頂きました。さらに、熊大代謝内科大学院へ進学し、糖尿病の新規治療法に関わる分子のメカニズムについての研究を行ってまいりました。

医師として一步を踏み出したこの病院に、今回勤務させていただくことになり、懐かしさとともに、医師としての初心に立ち返り、身の引き締まる思いです。

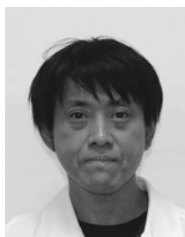
一日でも早く新しい環境に慣れ、皆様のお役に立てるよう頑張りますので、宜しくお願いいたします。



小児科  
なみかわ しん  
**並河 紳**

平成27年4月より小児科医として赴任いたしました並河と申します。熊本大学医学部附属病院小児科へ入局の後、熊本

赤十字病院を始めいくつかの病院で小児科医として勤務しておりましたが、3月までは宮崎県の国立病院機構都城病院で働いておりました。国立病院機構熊本医療センターは、まだ学生であった頃の実習で救急を見せていただいた以来となります。今回久しぶりにお邪魔させていただいて、病院の建て替えで新しくなっていることは耳にしておりましたが、実際に拝見させていただきそのスケールに驚かされました。活気あふれる病院に負けないよう、当院医療圏の小児医療に多少なりとも貢献できたらと考えております。よろしくお願いたします。



皮膚科  
ほんだ のりとし  
**本多 教稔**

平成27年4月1日より国立病院機構熊本医療センター皮膚科に赴任することになりました本多教稔と申します。宮崎大学医学部を卒業、初期研修を修了し、熊本大学皮膚科に入局しました。その後、熊本大学医学部附属病院、国立療養所菊池恵楓園、天草中央総合病院で勤務してまいりました。

熊本医療センターは救急からの入院も多く、重症感染症など急性期疾患の診療に今まで以上に従事することになると思います。皮膚科医として熊本の医療に少しでも貢献できるよう一生懸命頑張りますので、よろしくお願いたします。



# 研修のご案内

## 第196回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成27年5月18日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 内科基礎講座 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います  
 「第1症例 神経内科」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北智裕  
 「第2症例 血液内科」 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高道弘
  2. ミニレクチャー「糖尿病/食事指導について」  
 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 尾上友朗
- 日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第118回 総合症例検討会（CPC）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成27年5月20日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- テーマ：『全身の疼痛、発熱とリンパ節腫大』（70歳代 男性）  
 臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高道弘  
 病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長 村山寿彦
- 「起床時の手足のこわばりと痛みが出現し、発熱有り。かかりつけ医より紹介された。3ヶ月後にリンパ節腫大が進行してきた。」

\*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

## 第164回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成27年5月21日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「治療抵抗性の糖尿病を契機に診断し得たsubclinical cushing病の一例」  
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科  
 大津可絵、坂本和香奈、松山利奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至、荒木栄一
  2. 「Heat Shock Protein 72欠損による肝での脂質および耐糖能異常発症について」  
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科  
 松山利奈、大津可絵、坂本和香奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至、荒木栄一
- なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 TEL 096-353-6501(代表) 内線5796

## 第51回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成27年5月23日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：野津原内科医院 理事長

野津原 昭 先生

演題：「動脈硬化性疾患の治療と予防」

1. 動脈硬化性疾患の治療  
 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝
2. 動脈硬化性疾患の予防としての禁煙サポート  
 たかの呼吸器科内科クリニック院長 高野義久 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局  
 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

## 第139回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成27年5月27日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「胸部救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝  
 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長 岡本 実  
 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 名村 亮

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるように配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

# 2015年 研修日程表 5月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

5月	研修センターホール	研 修 室
1日(金)		
2日(土)		
3日(日)		
4日(月)		
5日(火)		
6日(水)		
7日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「医療安全について～医療事故のメカニズムを考える～」 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部長 芳賀克夫	
8日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝臓について」
9日(土)	17:00~19:00 摂食嚥下特別講演会 「摂食嚥下に関する解剖から手術治療まで」 浜松市リハビリテーション病院リハビリテーション科 えんげと声のセンター 副センター長 金沢英哲	
10日(日)		
11日(月)		
12日(火)		
13日(水)	18:00~19:30 第92回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)	
14日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「院内感染について」 国立病院機構熊本医療センター小児科部長(予防医学) 高木一孝 14:00~15:00 第26回 市民公開講座 「認知症について」 国立病院機構熊本医療センター精神科医長 山下建昭 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	
15日(金)		
16日(土)	9:00~17:00 第92回 救急蘇生法講座 ～二の丸ICLSコース～ 講師 国立病院機構熊本医療センター救命救急科医長 原田正公 ほか	
17日(日)		
18日(月)	19:00~20:30 第196回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
19日(火)		
20日(水)	19:00~20:30 第118回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「全身の疼痛、発熱とリンパ節腫大」	
21日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「循環の管理(急性冠症候群)」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝	19:00~20:45 第164回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
22日(金)		
23日(土)	15:00~17:30 第51回 症状・疾患別シリーズ 「動脈硬化性疾患の治療と予防」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 野津原内科医院 理事長 野津原 昭 1. 動脈硬化性疾患の治療 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝 2. 動脈硬化性疾患の予防としての禁煙サポート たかの呼吸器科内科クリニック 院長 高野義久	
24日(日)		
25日(月)		
26日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
27日(水)	18:30~20:00 第139回 救急症例検討会 「胸部救急疾患」	
28日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「循環の管理(不整脈疾患)」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾雄治	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)
29日(金)		
30日(土)		
31日(日)		

研1~3 2階研修室1~3

 ※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)